

嘉田マニフェストの自己評価と対話の会の評価

2010年6月

対話でつなごう滋賀の会

嘉田知事は4年目のマニフェストに対する自己の評価を公表致しました。私たち対話の会としても、知事のマニフェストの実現に向けて、知事とともに歩んできました立場から知事の自己評価について、数回の検討会議を行ってきました。

政策実行の責任者として、マニフェストの推進状況进行评估している知事の自己評価と、一般市民の立場で知事の政策を見守り、支援してきている対話の会との評価に自ずと違いがあってもおかしくはないとの考えに立ち、対話の会としてのマニフェストの評価を行いました。

この評価は、対話の会がマニフェスト勉強会を開催して実施したもので、公開で行いました。

以下 知事の自己評価と異なる項目について、評価とそのように評価した理由を簡単に記します。

評価は評価する人の立場や、考え方によって大きく異なります。今後はいろいろの視点から評価をするシステムの構築が望まれます。

● 1-3 「C+」

この問題について知事自身は前年度変化ない評価がなされていますが、この大きな借金を先送りすることなく、国にも働きかけ、またなぜこうなったかについての検証委員会立ち上げて整理をすすめました。そして県民に公表した点は大きな前進と考えます。

● 1-6 「B++」

この項目について知事は「A」の評価をしている。マニフェストで約束した100社の県内企業誘致など達成できていますが、誘致してほしい市町村の市民 感覚とは一致しないものと考えます。

● 1-8 「C+」

知事は前年度と変わらない評価となっていますが、規制の厳しい中であって、長浜港において、初めてレジャーのための駐車料金の聴取が出来る道を開きました。これはこれからのモデルとなり高く評価できます。

● 3-1 「B++」

知事の評価はマニフェストの目標が達成できているので、「A」となっていますが、雇用増が達成できたという実情と県民感覚から見た場合、そのように評価する人は多くないと思われます。

● 3-7 「C+」

地域で進めていますので、プラスは付けられると考えます。

● 3-8 「B++」

この項目について知事は、Aの評価をしている。たしかにマニフェストの数値目標や項目は達成できていますが、農業支援や継承の問題についてはまだまだ課題は多く、「B+」または「B++」に評価を下げるのが妥当と考えます。

● 4-1 「B+」

確かに目標値はまだ達していないのは事実ですが、限られた予算の中で課題の多い子ども達も増加している中、そうした方向に向けた努力の姿勢は高く評価できます。

● 4-3 「B+」

知事の評価は「B」のままですが、この項目は県民の主体的な立ち上がりの輪は確実に広がっています。協働の取り組みが評価される事例です。

● 4-5 「B+」

これらの予防対応については、各町村にも徹底してきており、徐々に意識の变革は進んできています。一步前進と評価できます。

● 4-7 「B+」

確かに改革大綱は完成し、マニフェストの多くは実現できていますが、今日の医療実態と市民感覚から見た場合「B+」が妥当と考えます。

● 5-2 「B」

県のアトバイサー制度においても、みずすまし事業においても、まるごと農業支援事業においても、近自然河川改修は定着しつつあり、さらに評価を高くして良いと考えます。

● 5-4 「B+」

市民参加で実質支援の取り組みが進んでいますので、+評価はできます。

● 6-1 「C+」

全体的な変化は数値として見えてきていないかもしれませんが、知事の機会ある講演や提案の効果もあり、こうした取り組みに対しての県民の意識は確実に変化してきており、具体的な取り組みも市民レベルで実施されています。

● 7-5 「B++」

知事の専門分野であり、指導も徹底しているので、マニフェスト実現に対する評価は高くできますが、現実問題として琵琶湖及び県内の生態系が保全されているという視点に立てばまだ課題は多い。事業を実施した事と、それに伴う

成果をどのように評価するかで評価のレベルは異なってきます。県民の視点で見れば「B++」が妥当と考えます。